

総合衛生学院移転候補地の利活用方策（案）

I 新長田駅南地区の現状

1 夜間人口は震災以前より増えているが、昼間人口が少ないのが課題

【新長田駅南地区 震災前後の人口】

	震災前	震災後	増加率
夜間人口	4,397人 (H7.1住基)	6,016人 (H30.12住基)	36.8%
昼間人口	4,906人 (H3事業所統計)	3,271人 (H28経済センサス)	△33.3%

2 再開発ビルの入居率は95%となっているが、従前からの権利者の後継者不足等により商店街はシャッターが目立つ状況

【商業床の状況（H31.2.1 神戸市市街地整備課調査）】

	全体※	権利床	市保有床	
			入居中	空区画
区画数	603	249	354	27
面積(m ²)	67,104.70	27,959.33	39,145.37	1,952.01

※) 市施行再開発ビルのみ。特定建築者再開発ビルを除く

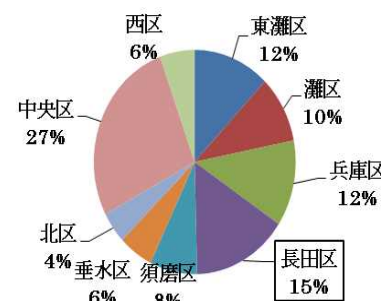
3 高層住宅の整備が進んだことから、子どもの人口は増えている

【新長田駅南地区 5歳階級別子ども人口】

	0~4歳	5~9歳	10~14歳	総計		0~4歳	5~9歳	10~14歳	総計
H13.12	89	51	57	197	H22.12	202	164	98	464
H14.12	124	84	51	259	H23.12	221	176	115	512
H15.12	122	88	57	267	H24.12	246	180	131	557
H16.12	163	88	71	322	H25.12	259	189	145	593
H17.12	141	102	93	336	H26.12	274	194	161	629
H18.12	151	131	94	376	H27.12	265	206	155	626
H19.12	194	139	100	433	H28.12	245	224	161	630
H20.12	196	138	98	432	H29.12	242	227	168	637
H21.12	185	162	90	437	H30.12	223	221	177	621

4 在住外国人が多い地区で、最近ではベトナム人が増加傾向にある

【在留外国人市区町別人員数（H29.12月末法務省「在留外国人統計」）】



	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
韓国・朝鮮	5,876	5,642	5,489	5,304	5,197	5,088	4,940	4,546	4,417	4,289
中国	569	610	631	657	684	697	743	745	775	763
ベトナム	775	832	862	901	919	984	1,126	1,233	1,372	1,519
その他	217	238	239	240	259	321	346	636	674	705
総数	7,437	7,322	7,221	7,102	7,059	7,090	7,155	7,160	7,238	7,276

5 再開発事業の整備は概ね完了している

別添「新長田駅南地区の周辺主要施設一覧」のとおり

II 総合衛生学院の将来像

- 平成30年に学科再編を実施、介護福祉学科を新設、看護学科2年課程全日制を廃止
- 当面は再編後の学科をベースに運営し、多職種と連携しながら地域包括ケアシステムの主力として、またチーム医療の一員として活躍できる、質の高い医療介護人材を養成していく
- 社会的ニーズ・環境の変化等に応じて、引き続き学院のあり方検討を行い、適切に学科再編していく

学 科	入学定員	修業年限	学科の必要性
助産学科	20人	1年	県内唯一の1年課程の助産師養成所
看護学科2年課程定時制	40人	3年	准看護師が看護師資格を取得する課程は、県内で学院と神戸常盤短期大学（通信制）のみ
歯科衛生学科	40人	3年	求人倍率高い職種、県全体の約20%弱を学院が養成
介護福祉学科	40人	2年	増加する介護サービスの需要に対応するため必要

※定員は、看護学科2年課程全日制廃止後の令和3年4月現在の定員

III 移転候補地の利活用方策（案）

1 施設整備の概要（案）

- ① 建築可能面積：延べ床面積 約12,000m²
- ② 総合衛生学院の必要面積：約6,600m² ※介護福祉学科含む
- ③ 学院以外での利活用可能面積：約5,400m² (①-②)

移転候補地の概要

- (1) 所在地：長田区腕塚町5丁目第3工区
(JR新長田駅徒歩7分)
- (2) 土地：面積2,384.23m²、商業地域、建ぺい率70%、容積率509%

2 利活用の方向性

- (1) 総合衛生学院との連携による取組みが実施できる利活用
- (2) 地域の賑わいづくり・活性化につながる利活用
- (3) 子ども・在住外国人が増えている地区の特徴を踏まえた利活用

3 利活用方策（案）

新長田駅南地区の現状、学院の将来像、利活用検討会委員の意見を踏まえて、以下の4点の利活用方策案で検討を進めていく

利活用方策（案）	理 由
子育て支援施設	子育て世代が増加している地域の特徴・ニーズを踏まえた利活用方策で、地域の魅力アップ、賑わいづくりが期待できる
医療介護人材研修施設	総合衛生学院に新たな機能・役割を追加して社会的ニーズに対応、研修受講者の来訪により地域の賑わいづくりも期待できる
教育施設	教育施設同士の同居に違和感なく、学院との連携も可能、通学する学生が増えることにより地域の賑わいづくりも期待できる
高齢者・障害者(児)支援施設	需要の増加が見込まれる高齢者施設や、医療と療育を提供する障害者支援施設の誘致により、学院の実習場所等地域連携としての活用が期待できる

（利活用面積が約5,400m²と大きく、複合施設での利活用もありえるので、検討会からは複数の利活用方策を提案してもらう予定）